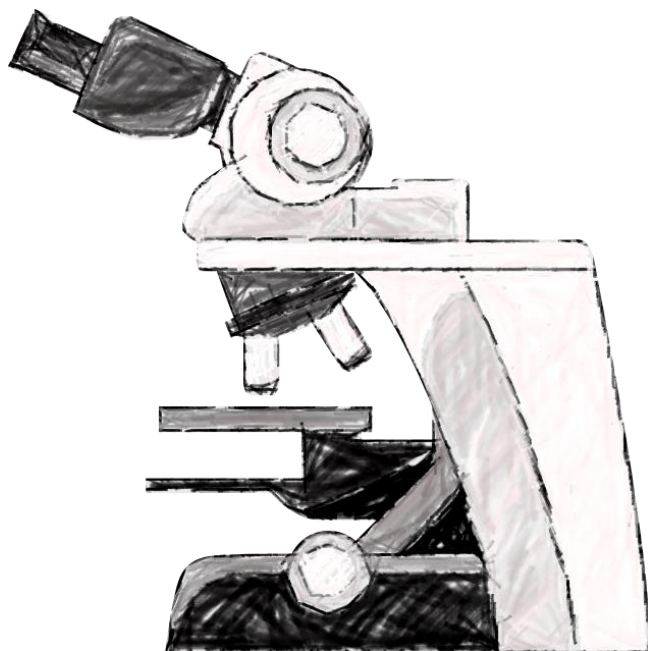


検査説明パンフレット 病理組織検査

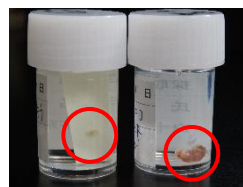


病理組織検査とは？

病理組織検査では、内視鏡検査などで胃や大腸から採取した組織の一部や、手術で摘出した臓器などから病理組織標本を作製します。病理組織標本を顕微鏡で観察し、病気の種類が何か、病気がどのくらい進行しているのか、手術で病変部をとりきれたのか、がんの場合は転移の有無などを調べます。臨床検査技師は主に病理組織標本の作製を行い、病理医（医師）が診断を行います。

病理組織標本が出来るまで…

病理組織標本は、目的によって、また臓器によっていろいろな方法で処理を行い作製しています。ここでは、基本的な工程を簡単にご説明します。写真は、内視鏡検査で採取した組織です。



【固定】

採取された組織は、腐らないようにするためにホルマリンという液体に浸けて、固定という操作を行います。

組織の大きさにもよりますが、8～24時間程度かけてホルマリンを浸透させます。



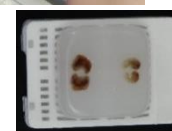
【切り出し】

組織を、一つずつ確認しながら、必要に応じて切るなどの処理を行い、カセットと言われる小さなケースに組織を入れます。



【包埋（ほうまい）】

機械に一晩かけて、脱水などの処理を行い、パラフィン（ロウソクのロウ）を組織に浸透させます。次に、パラフィンを冷やして固め、パラフィンブロックを作製します。



パラフィンブロック



【薄切（はくせつ）】

ミクロトームという機器を使用し、
3～5 μm の薄さに切り、スライド
ガラスにのせます。
(1 μm = 1000 分の 1 mm)
少し温度を上げて乾燥させ、しっか
りと貼り付けます。



【染色】

染色（HE 染色）を行い、細胞に色
をつけて、顕微鏡で観察できるよ
うにします。



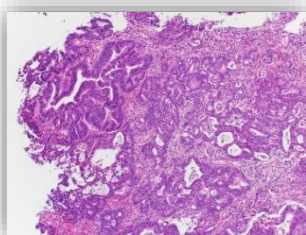
【封入】

カバーガラスという薄いガラ
スを被せて、病理組織標本の
完成です。

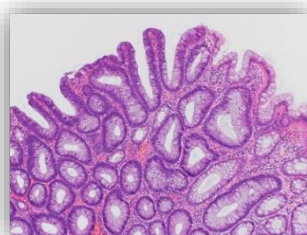


*小さな検体で、検体の提出から診断報告までに2～3日かかります。
さらに詳しく調べるために追加で染色を行ったり、手術で摘出した大き
な臓器では、1～2週間ほどかかる事もあります。

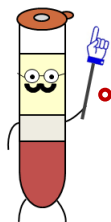
顕微鏡写真
(HE 染色)



大腸癌



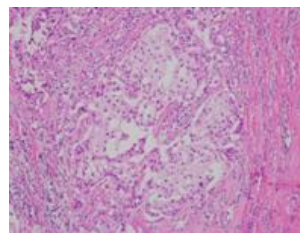
大腸腺腫（良性腫瘍）



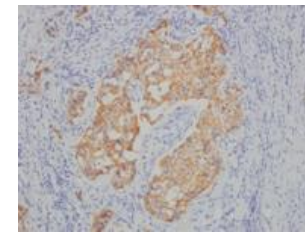
標本作製の良し悪しや、染色の質は病理
診断に影響を及ぼすため、とても重要な
仕事です。

免疫組織化学染色

通常はヘマトキシリン・エオジン（HE）染色で診断されますが、それ
だけでは確定診断できない場合があります。そのような時に、目的に応
じて抗原抗体反応を利用した免疫組織化学染色を行っています。また、
癌の治療方針を決定するための重要な検査ともなります。



乳がんの HE 染色



乳がんの免疫染色（HER2）

術中迅速診断

手術中に、病変部が良性か悪性かを判断したり、病変部が取りきれている
か切除断端を判定したり、またリンパ節に転移がないかどうかなどの確認
をするために行う検査です。この結果により、追加切除や術式が決定され
ます。

提出された組織材料は－75℃で凍結し、クリオスタットという機器を用いて標本を作製します。その後、迅速
にHE染色を行い、病理医が標本を顕微鏡で観察して、
電話で手術室に診断結果を報告しています。検体が提出
されてから結果報告までにかかる時間は20～30分
程度です。



クリオスタット

病理解剖

不幸にして亡くなられた御家族の承諾が得られた場合に病理解剖を行
います。全身について系統的に検索することによって、病気の本態を明らか
にして、死因、合併症、治療方法の適否、治療効果について検討します。